

(iii) The differentiation into the two types of pollen morphology occurred in an early phase of divergency of the species.

(iv) The examined Chenopodiaceae are considered to be the precursors of the Polygonaceae from the results of palynological and cytological studies.

(v) The genus *Polygonum* (containing the genera *Rumex* and *Oxyria*) is one of the most advanced group. In this group, some characters of higher plants were lost; for example the petals are lacking. Thus, this group is developing toward simplification.

Regarding the intrageneric differentiation of the *Polygonum* species, a preliminary scheme was shown in Fig. 4.

○顕花植物の新属の数 (前川文夫) Fumio MAEKAWA: About 4000 new genera of flowering plants in these 35 years.

最近必要があって Index Kewensis の補遺を調べてみたら、新属の発表数が大体下の数だけあることを知ったので話の種に一筆記す。1921年から1955年までの35年間の累計は下の通りである。

Gymnospermae	7 fam	38 gen.
Monocotyledoneae	30 "	808 "
Dicotyledoneae	156 "	3106 "
Incertae (位置不詳)		13 "
	193 fam.	3952 (外 13) gen.

これには *Ratinesque* の立てたような古くてたのを再認する属や、当然つぶれるものなども含んでいる。またこの年間に第二次世界大戦があったのでほぼ30年分の業績とみてよからう。すると毎年131属強、大体毎月10属位の速度で属が生れているわけだ。いい属も、くだらない属も玉石混淆、一々当り直してみれば面白いが、今はそこまで手をのばせない。

次に50属以上の新属の出たものをあげると全部で19科あり、单子葉ではイネ科299、ラン科164、ヤシ科101、エリ科71、双子葉ではマメ科258、キク科211、サボテン科194、アカネ科184、マツバボタン科168、キツネノマゴ科120、ナタネ科120、セリ科106、トウダイグサ科90、キヨウチクトウ科83、シソ科64、ゴマノハグサ科58、ムラサキ科57、ノウゼンカズラ科56、ノボタン科54、となる。

属の高さは著者によってまちまちでサボテン科の如きは明らかに細分に失するから、全体の妥当な新属はいいところ1/3位かと思われる。

終りにこの数字算出の基礎のリストをつくるのに協力された有吉愛子さんの勞を感謝する。